

# 全国和牛登録協議会の概況

## 黒毛和種審査標準の改正と第2回全国和牛共進会

全国和牛登録協会ではさきに3月8日登録を実施している全国38府県の県と、関係団体との参集を求めて、恒例の全国協議会を開催した。

協議の主な内容は黒毛和種審査標準の改正と第2回全国和牛共進会の開催とであったので、読者各位の御諒知を得るために次にその概要を掲げよう。

### (一) 黒毛和種審査標準の改正について

読者の中にはまたかと思われる人もあるかも知れない。それほどよく審査標準はかわる。筆者の思うに和牛の置かれている環境は年々著しい変革を示している。和牛は時代の要求に即応して、その性格をハッキリした方向にもって行かなければならない。即ち肉用能力を充分発揮できるようなものに一そう特徴づけられなければならない。次に示す登録協会が出した解説を見てもらえばこれがハッキリすると思う。ただし筆者は解説書の表現が今一つひかえ目であり、改正についてももう一步の決断がほしかったと靴を隔てて痒きをかき思いで、今回の改正を見ているが、読者各位はいかが？

なお実施期日は来る4月1日以降ということに決まっている。

## 黒毛和種審査標準の改正に関する解説

### 一. 主旨

現行の黒毛和種の審査標準が、採択されてから、すでに10年近くなるうとし、その間、和牛の改良も進み、また時代の和牛に対する要求も、若干変ってきたように思われる。そこで、この際、現行の標準を改正し、和牛の改良に万全を期さんとするものである。

### 二. 改正の根本方針

(イ) 現行のものに大改正を加えて、審査の実務を混乱せしめるようなことのないようにすること。

(ロ) 肉に若干重さを加え、更に役、乳の利用の徹

底を図ること。

(ハ) 項目を整理し、なるべく実際に牛をみるみ方にそうようにし、なお、文字を平易にすること。

### 三. 主なる改正点とその解説

#### (一) 前文について

(イ) 「成熟期に入り」という言葉を「ほぼ成熟し」となし、その月数を牝牡別に入れたこと。

「成熟期に入り」という言葉は、科学的だがやや難解の嫌があるので、前述のようにした。なお、ほぼ成熟する月数は牛体の部位により異なるが、その大部分が、成熟値の大体、95%以上に達する月数を牝牡別に詳細に検討してみると、従前も、牝では生後30ヵ月、牡では生後36ヵ月であるから、牝牡に分けてこの度明示した。ただしこれは現在の和牛の熟性を変更しようとする考えの現われではない。

(ロ) 完熟の月数を牝牡別に記したこと。

これは中国農試畜産部の最近の研究により、牝約50ヶ月、牡約60ヶ月と詳述した。

(ハ) 牡の完熟したものの体高を137cm、体重を700kgに改めたこと。

これは、最近の黒毛和種種牡牛の測定数値を参照して上のようにした。

(ニ) 体高に対する各部の比率において、牡の十字部高を98に、胸囲を153にしたこと。

この理由についても上と同じである。

#### (二) 本文について

(イ) 「均称、体積」、「品位、性質」を本文の最初にもってきたこと。

これは、実際に牛をみる順序によったまでである。

(ロ) 配点において次のように改正したこと

岡山畜産便り1957.04

部 位	現 在		改 正	
	牝	牡	牝	牡
品位, 性質	8	8	7	7
肩	6	6	5	5
背 腰	6	6	7	7
腿	4	4	6	6
歩 様	6	6	5	5

「品位, 性質」において、品位は種畜として重要なものであることは勿論であるが、この「品位, 性質」のところでは、性質は良ければそのままとし、性質のよくない場合にのみ、その程度に応じて減率するという約束になっているから、この点数の内容は、殆んど品位そのものに関するものといってよい。そこで、これを一点減じて7点としたのであって、他の部位との均合上、品位を軽視したわけではない。

「肩」の6点を5点にしたのは、従来、和牛の使役の立場から、肩の付きと厚さを、とくに厳格にみてきたが、少々厚い肩でも、附着のしっかりした肩は、本邦の普通の農業に於ける役利用上、差支えないということも解ってきたので、肩の従来改良目標の一部が緩和されたことになり、この際1点を減じて、和牛の現在の役用能力に支障はなさそうであるからである。又和牛審査特別研究会に於ても、案外肩は良かったということも理由の一つである。

「背腰」の6点を7点にしたのは、今後の和牛の経済性を高める上から幾分重視したためである。

「腿」の4点を6点にしたのも、上と同様の考からである。ただし、これは、腿をやたらに厚くしたいという意ではない。和牛の内腿の厚さの如きは、現在の牛でも大体十分であるが、外腿をモ少し充実さす要がある。さらに、和牛の腿で大切なのは、その形であり、ことに横からみた場合に、下腿の幅の狭くて形の悪いものが多いことであろう。腿の形の悪いものは、これを肉牛に仕上げた場合に、側望が長方形を示す肉牛型をなさない。この際、腿の点数を6点にすることは、その経済性を高めて、和牛の肉の歩留をも増し、現代に於ける和牛の在り方を、判然と指した点で大いに意義がある。

「歩様」の6点を5点にしたのは、役利用上、歩様の重要性を軽視したものではない。歩様には体各部の影響が総合的に現われるものであるから、各部の点数が相当数、配点してある以上、今後は5点で宜しかる

うと考えたわけである。

(ハ)「肋腹」の所の記載において肋の角度と長さを附加したこと。

肋の張りだけでは、給飼の具合、その他によりその様相が変わるから、肋の角度をみるべきことを示した。肋の長さは、飼料の利用性という点から見落としえない所である。

(ニ)腿の所の記載において、上腿と下腿と分けて、はっきりと記載したこと。

前述の如く和牛の現状では下腿の狭く、形のよくないものが多いから、とくに上腿、下腿と分けて記して、その重要性を判然とさせた。

(ホ)失格のうち「舌全部白きもの」は削除したこと。

和牛における失格というのは、品種の特色に反するもので、その出現のために、和牛の改良に支障を来たすような形質を有するものを指す。この定義からいえば、白舌や桃舌は、現在においては、その出現数からいっても、実用価値からいっても、失格から除外してもよいと思われる。ただしこの減率は顔の部の減率に10%を加えることにする。

**黒毛和種審査標準**

(32. 2. 25改正 32. 4. 1から実施)

被毛黒く、体軀は大体長方形で、各部の均称宜しく、体積豊かで、筋腱よく緊り、四肢強堅、動作は活発で、牝牡それぞれの品位を備え、性質温順、体質強健で、飼料の利用性に富み、牝では生後30ヵ月、牡では36ヵ月でほぼ成熟し、完熟(牝生後約50ヵ月、牡約60ヵ月)したものでは体高牝約125センチメートル(4尺1寸3分)牡約137センチメートル(4尺5寸2分)、体重牝約420キログラム(112貫)牡約700キログラム(187貫)に達し、体高に対する各部の大きさは大体次の比率を保つこと。

	体高		十字部高		体長(水平)	
	胸囲	●幅	胸深	胸幅	尻長	腰角幅
牝	100	100	118	142	53	36
		40	39	36	24	13
牡	100	98	122	153	55	38
		41	38	37	25	15

岡山畜産便り1957.04

部 位	説 明	標 点	
		牝	牡
均称体積	頭、頸、体軀、四肢相互の釣合及前、中、後軀の釣合よく、各部の移行なめらかで、体上線の平直なもの 發育良好で、肉付均等、体軀広く、深く、胴伸よく、体積豊かなもの	7	7
品位性質	牝牡それぞれの性相を現わし、体緊実し、輪廓鮮明で品位に富むもの 性質は温順で活々とし、牝の姿はやさしく、牡の態度は堂々たるもの	7	7
顔	額は平で広く、上部は緊り「こめかみ」は鮮明なもの 眼はよく開き、「まぶた」は薄く、活々として温和なもの 頬は豊かで、顎は張って強いもの 鼻梁はまっすぐで長さ中等、鼻鏡は広く、鼻孔の大きいもの 口は大きくて緊り、歯は正しく揃い、舌は灰黒色のもの	5	6
角 耳 項	角は丸く、太さと長さとは頭部に釣合い、ほぼ上方に向い、質は緻密で光沢があり、色は黒く、つけ根の近くが水青色のもの 耳は大き中等、附着よく、その質軟く、耳毛も剛くないもの 項は広く、くぼみの深くないもの	3	4
頸	頭部と前軀とへなだらかに移行し、皮膚にゆとりがあり、牝では優美で顎垂少く、牡では厚く頸峯と胸垂との適度に発達したもの	3	4
肩	長さ中等で程よく傾斜し、緊実に附着し、「きこう」の厚さは適度で肩端突出せず緩くないもの、肩後は充実しているもの	5	5
胸	広く、深く、胸前と肘後とは充実し、胸底広く、平なもの	5	5
肋 腹	肋は附着よく、その角度でなめらかによく張りて長く、肋間の広いもの 腹は豊かでゆるくなく、下臑部は切り上り少く、充実しているもの	6	6
背 腰	平直で強く、広く、長く、前後への移行がなだらかなもの	7	7
十 字 部 腰 角	十字部は平で前後左右への移行なだらかなもの 腰角は突出せず、腰角間適度に広く、牝ではやや「かどめ」があり、牡では丸味があるもの	4	4
尻	広く長く、側望後望共に傾斜少く、せん骨の高くないもの	5	5
●	腰角と坐骨端から大体等距離にあつて低くなく、幅の広いもの	5	5
臀	広くして形よく、坐骨端は突出せず、出尻でないもの	4	4
尾	尾附よく、粗大でなく、長さ適度で真直に下り、尾房の質のよいもの	2	2
腿	上腿も下腿も共に広く、形よく充実し、外腿の肉付なめらかなもの	6	6
被 毛 皮 膚	被毛は黒く、わずかに褐色を帯びて光沢があり、細く柔かく密生しているもの 皮膚は厚さ適度で柔かく弾力に富みゆとりのあるもの	6	6
乳 性 性 器	乳房は均等によく発達し、柔軟で弾力があり、乳頭は大きく柔かで配置よく、乳脈は太く、長いもの 牝陰は正常なもの、睾丸は發育均等で皮膚の質宜しく、包皮のゆるくないもの	8	5
肢 蹄	肢はその長さ体の深さに釣合い、肢勢は正しく、筋腱と関節とはよく発達して緊り、飛節は高く、緊って強いもの 管は形よく緊り「つなぎ」は傾斜適度で強いもの 蹄は黒く、大きく厚く、形良く、質緻密にしてなめらかなもの	7	7
歩 様	歩幅は広く、確実に踏み、肢の運びはまっすぐで軽く、飛節や腰のゆれが少ないもの	5	5
満 点		100	100
失 格	異毛色 乳房部（牝）恥骨部（牡）以外の顕著な白斑		

## 岡山畜産便り1957.04

### (二) 第2回全国和牛共進会の開催について

全国和牛登録協会の創立10周年記念事業として次のような構想で来年の秋名古屋で開催される運びになっている。開催地元の愛知県が引き受けることを承諾していること、登録協会自体はかねてから所要経費について予算的に準備ができていないこと、出品希望も非常に多く、むしろ各県間の調整に骨が折れるほどであることなど開催の条件は充分整っていない、今回の協議会で協会の構想はまとまったものと想像される。ただ残された大きな問題は出品県としては、出品諸経費の出し方がなかなかむづかしい時になっているので、この点について、構想がまとまり次第、近く主催者から農林省や関係各県へ働きかけて物心両面に亘る積極的な援助を要請される由。

なお読者各位の関心の深い出品点数については、申込希望頭数が共進会の規模にはいりきれない位多く、殊に肉牛がそうであったので、大体の見当として、中国地方の各県は種牛7-8頭に出品をしぼって、肉牛

は他県にゆずってほしい旨協会の意向が示された。中国地方は種牛に、そして近畿その他肥育地帯は肉牛に出品の重点をもって行って、共進会に特徴をもたせるということは原則論としてもっともな話ではあるが、時節がら去勢肉牛の最小限度の出品位は本県としても必要であることを力説しておいたが、これについてはいずれ最終的に調整されると思う。

(32. 3. 20M. H)